

2011年度 第1回 人権フラザ天白 社会同和教育講座

日時 2012年1月28日(土) 10時~11時30分

場所 天白第二集会所

講師 (財)反差別・人権研究所みえ 本江優子さん

部落差別をなくす主体者として まずは自分の立ち位置を問い直す 社会同和教育講座

1月28日(土)、今年度2回目の社会同和教育講座を開催しました。お話を伺ったのは『反差別人権研究所みえ』の本江優子さん。本江さんが現在の職場に勤めるようになったのは、自らの

被差別体験と関係があります。同和地区に生まれ育ったことを理由に好きな人との結婚が叶わなかった。自分を消してしまおうとさえ思った。今から振り返ると、それまで同和問題に関心の薄かった自分が、「学習しよう」と思い始めたのはこの時からだったと言います。

お話の中で、三重県が2004年に実施した県民意識調査(とくに、学校で同和教育を受けてきたと思われる20歳代の意識の実態)を紹介しました。「もしかりに、あなたのお子さんが恋愛し、結婚したいといっている相手が同和地区の人と分かった場合、あなたはどんな態度を取りますか」に対して「問題にしない」が80%を上回るいっぽうで、

部落問題をめぐる社会の動向については「世間ではまだまだ差別が残っており、差別をなくそうとする人が孤立してしまう」が50%を超えている。このことを取り上げました。

「差別をなくそうとする人が孤立してしまう。この考えからは、部落差別をなくそうとする社会をつくりだせそうにはありません。講演のテーマにもある「部落差別をなくす主体者」にはなりえない。では、どうすればいいのか。本江さんは「まずは自分の立ち位置を問い直すことだ」と言います。無関心になっていないか! 傍観者になっていないか! 自分から「差別をしない」ことは言うまでもありませんが、日常生活の会話の中で「そんなことはバカバカしい」ということを自分たちで議論しあうことがだいじだ。今回の本江さんのように、同和問題に「熱心に取り組んでいる人」との出会いから、地域における啓発リーダーが育ってくるのが望まれているんだと思います。人権の「まちづくり」がめざすものを教えていただきました。

